

地場産業と農業の高度化を研修

金融業部会

金融業部会（並木富士雄部会長）は9月5日に16名の参加により、視察見学会を開催しました。

今回は、「ダイニチ工業(株)」と農業の6次産業化を図る中核施設として開設された「アグリパーク」を視察しました。

ダイニチ工業(株)は、県内生産で部品も地元企業から仕入れるなど、地域経済を支える製造業として地域の雇用創出に多大な貢献があります。

視察では、製造ラインを見学しましたが、ライン脇には部品の納入業者名・数量・納入日などの情報が明記してあり、在庫を持たなくても短期で製造・納品できる様子が見て取れました。

アグリパークは日本初の公立教育ファームで、全国的にも珍しい「宿泊型農業施設」です。一般向けの農業体験学



ダイニチ工業(株)工場内のようす

習としての「アグリ・スタディ・プログラム」と就農希望者に対する「就農支援プログラム」（実地体験・研修・相談など）により、農業振興・支援を順次行っていくとしています。

インフラ老朽化をビジネスチャンスに！

建設・不動産部会講演会を開催

9月24日、建設・不動産部会（本間達郎部会長）では、社会インフラの老朽化問題について研究するため、東洋大学経済学部教授の根本祐二氏を招き、「朽ちるインフラ」インフラ老朽化をビジネスチャンスに変える」と題した講演会を開催しました。

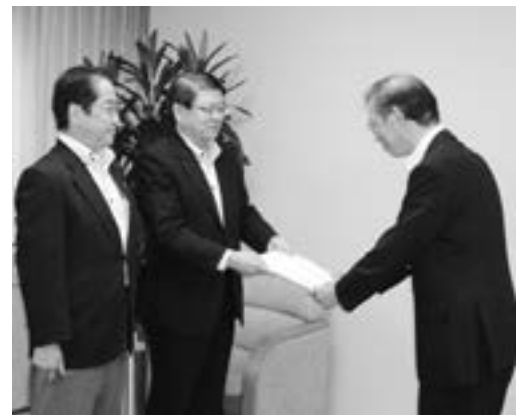
根本氏は、各地でインフラの物理的崩壊事故が相当数起こっており、高度成長期前後に短期集中で投資された社会インフラの更新需要のピークが近づくと一方、公共事業予算が全く足りていないと分析。国や自治体の方針も、今あるものを精査して、統廃合、複合化のうえ残すものは大事に維持管理していくという方向へ転換しており、これからは、出来るだけインフラの量を減らしてサービスを維持する「省インフラ」の時代であると解説しました。

産業活性化に向けた産学官連携の

強化策を提言

政策委員会

政策委員会（田巻清文委員長）は、新潟市における定住人口の増加および交流人口の増加を図るためには、産学官連携のさらなる強化による産業振興と地域づ



提言書を手渡す田巻委員長と藤田副委員長

くりが必要不可欠との考えから、この度、「新潟の産業活性化に向けた産学官連携の強化に関する提言」を取りまとめ、新潟県、新潟市、新潟大学に提出しました。

提言では、新潟における産学官連携の現状を踏まえ、①大学が企業ニーズを積極的に把握する取り組み②県内企業が大学と連携強化するための取り組み③コーディネートターのネットワーク構築④産学官連携を推進するための環境整備⑤新たな分野における産学官連携の推進といった5つの項目について方向性や強化策などを掲げています。

※提言の詳細は当所HP (<http://www.nigata-cior.jp>)をご覧ください。

地域ポイントの活用に向けた提言書を提出

まちづくり委員会

まちづくり委員会（富山修一委員長）は、非接触ICカード等を活用した地域ポイ

ントの仕組みづくりが、地域社会の好循環を創出する新たな経済モデルになりうるとの考えから、「地域ポイント（スマート決済）による地域活性化提言書」を取りまとめ、9月19日に、新潟市へ提出しました。

また同日、まちづくり委員会を開催し、新潟市都市地域・魅力創造部の井崎部次長から次期新潟市総合計画の素案について説明を受けました。当該計画は新潟市の最上位計画で、人口減、定住人口拡大対策として公共交通、健康づくりが連動し、市民が健康で安心して暮らせるようなまちづくりの展開を計画するものであり、委員からは、「流入人口や定住者を増加させるには、雇用の拡大が不可欠である」といった意見が出されました。

※提言の詳細は当所HP (<http://www.nigata-cior.jp>)をご覧ください。



浜田副市長へ提言書を提出
左から渡辺副委員長、富山委員長、高橋副会頭、阿部副委員長

上越新幹線の利便性向上について要望
 ～上越新幹線活性化同盟会～

上越新幹線活性化同盟会では、9月17日、JR東日本本社や国土交通省などを訪ね、上越新幹線の利便性と魅力の向上に向けた要望を行いました。

当日は、同会会長の篠田昭新潟市長をはじめ沿線の市町村や商工会議所などが参加し、当所からは佐藤丈二観光業部会長が出席しました。

JR東日本本社では、深澤祐二副社長と面会し、現行運行本数からの増便や新型車両の導入、新潟駅と新潟空港間のアクセス強化などを求めました。

中国ビジネスセミナーを開催
 ～第2回国際ビジネス研究会～

当所では、日本政策金融公庫ならびにJETRO新潟との共催で、9月18日に「中国ビジネスセミナー（第2回国際ビジネス研究会）」を開催しました。

当日は、3人の講師による3部構成で、第1部では、「日本企業の対中戦略（輸出・投資）」と題し、日本政策金融公庫の上海事務所主席駐在員の諏訪宣善氏から最新の現地事情等について、また第2部では、新潟県知事政策局輸出入促進担当参与の木村誠氏から「米国（米系）企業の対中戦略（輸出・投資）」と題して、米中貿易や投資のトレンドについて説明を受けました。

第3部は、実際に中国でビジネスを行っている県内企業の（株）北越電研代表取締役社長 平石幸史氏から、「中国ビジネス

の現状」と題して、現地での課題や問題点、これまでの様々な苦労やビジネス上のリスク、今後の将来性などについて具体的な説明を受けました。

情報交換でビジネスチャンス拡大
 ～ビジネス情報交換会～



熱心にグループ討議する参加者

9月25日に会員サービス事業の一環として「ビジネス情報交換会」を開催しました。この情報交換会は、事業運営のヒントや情報などを会員事業所同士で交換することにより、既存のビジネス領域を越えた新たなネットワーク・人脈形成を図り、多様な連携によるビジネスを創出する機会となるよう開催したものです。

当日は、21事業所から25名が参加し、活発な情報交換を行いました。また、グループ別に分かれて行われたビジネスマッチングの発表では、「異業種交流で新たなビジネスのヒントを得られた」「今後とも交流

を図っていきたい」などの意見が多くいただきました。

世界文化遺産 富岡製糸場を巡る秋の旅行と
 第39回ゴルフ大会を開催 ～商工クラブ～

新潟商工会議所会員の親睦団体である商工クラブ（理事長・高橋秀松副会頭）は、9月17・18日に恒例の秋の旅行を参加者12名で実施しました。

旅のメインである富岡製糸場は、明治初頭の建築物や機械等が現存しており、当時の様子がしのばれるとともに、近代製糸の歴史を学べる場であることから産業遺産としての価値を実感しました。

この他、東洋のナイヤガラと謳われている吹割の滝や、巨大天狗で有名な弥勒寺を巡り、旧軽井沢銀座では、おしゃれな街並みを満喫しました。また、9月30日、紫雲ゴルフ倶楽部に

平成26年度 国際情報大学学生
 インターンシップ受入れ



当所では、毎年、新潟国際情報大学学生のインターンシップ受入れを実施しており、本年も、同大学情報システム学科3年生の3名（写真左から田中 優美さん、長谷川 惇さん、山田 直哉さん）が、職場実習を体験しました。

期間は9月1日から9月12日の2週間で、会議所の事業内容等の説明を受けた他、様々な業務に意欲的に取り組み、社会人としての心構えや職場マナーを学びました。

おいて第39回商工クラブゴルフ大会を開催、参加者29名でプレーを楽しみました。なお、優勝は北村泰作氏（株）北村製作所、準優勝は河江芳久氏（福田道路株）、第3位は関口一栄氏（株）フジ・クリエィティブセンター）でした。



商工クラブ秋の旅行